新庁舎設計に関する市民ワークショップを開催

市は新庁舎の建設にあたり、「佐野市新庁舎建設計画」において、「市民の参画」を基本方針のひとつとして掲げ、市民の皆さんのご意見を反映できるように努めています。

そこで、市では市民の皆さんの意見の反映の方法の一つとして、現在、市民ワークショップを開催しています。

新庁舎設計に関する市民ワークショップは、５月２４日に第１回目を開催し、７月５日に第５回を開催する予定です。ワークショップで出された意見は取りまとめられ、市長に報告書として提出されます。

５月３１日に開催された第２回市民ワークショップでは、「新庁舎内部のイメージ」をテーマに話し合われ、市民利用スペースや市民ロビーなどについて、新庁舎を舞台とするさまざまなビジョン（思い）が、委員の皆さんから発言されました。

また、６月１５日に開催された第３回目のワークショップでは、「新庁舎外部（敷地内）のイメージ」と「環境」をテーマに話し合われ、市民広場の活用方法、および庁舎のエコなどについて委員の皆さんから発言されました。

委員の皆さんはグループの中で活発な意見交換を行い、ワークショップの最後に各グループで話し合われた意見を、グループの代表者が発表しています。

市ではこの市民ワークショップを通して、「より良い新庁舎」を目指し、設計業務を進めていきます。

本市出身の斎川選手（レスリング）、ロンドンオリンピックへ

ロンドン五輪の男子レスリング・グレコローマンスタイル９６キロ級に出場する斎川哲克（のりかつ）選手が、５月３０日、市役所を訪れました。

斎川選手は天神町出身。城北小学校、佐野西中学校を卒業後、足利工業高校でレスリングを始めました。

全国高校生グレコローマン選手権などで優勝に輝き、日本体育大学へ進学後も全日本学生選手権などで優勝。今年４月に行われたロンドン五輪アジア予選の男子グレコローマンスタイル９６キロ級で準優勝に輝き、見事に五輪出場を決めました。

ロンドン・オリンピックの開幕は７月下旬の予定です。斎川選手をはじめ、日本人選手に声援を送りましょう。

～甘い誘いにのらないで、薬物乱用はダメ。ゼッタイ～

６月１９日、葛生中学校で、特別授業「薬物乱用防止教室」が行われました。この授業は、同校ＯＢで、栃木県薬物乱用防止指導員である塩田彦之さんほか葛生ライオンズクラブのメンバー６人が講師となり、生徒ひとりひとりに直接訴えるため、初めて各学年・クラス単位に教室で行われました。

講師の説明や寸劇、そしてグループ討議で薬物について学んだ生徒のひとりは「薬物の怖さ、そして薬物を誘われた時の断り方を学べて良かった」と感想を話してくれました。

講師を務めた塩田さんは「薬物は１度くらいなら大丈夫、との甘い考えが一番悪い。断る勇気を持ってください。薬物乱用防止のため、これからも仲間と共に協力していきたい」と力強く語ってくれました。

～市内を笑いと芸術のデュオで盛り上げよう！～

▶昨年9月に行われた「まちなかスポーツ＆グルメフェスティバル」

７月１４日～２８日の毎週土曜日の３週にわたり、市内を笑いに包み、市内の活性化を図るイベントが開催されます。このイベントは「まちなかお笑い月間」と称され、お笑い芸人を呼び、佐野駅前の中心市街地やまちなか活性化ビル「佐野未来館」で、ライブショーを行ったり、市民と一緒に市街地を散策したりします。

最終日の２８日は「まちなか♡婚活ＢＢＱ」も企画されていて、一層の盛り上がりが期待されています。

また、７月２０日（金）から２２日（日）は佐野商工会議所まちなかサロンで佐野マーチング委員会が主催する「第３回さの百景イラスト展」が行われ、市内の作家さんが描いたイラストが展示されます。

▲佐野駅前で行われるさの秀郷まつり

７月は皆さんで笑いと芸術に触れ、佐野駅前のまちなかを活性化しましょう！

（市民記者　飯田瞬）

唐澤山神社にて奉納神楽の舞

岩手県花巻市の早池峰神楽は、国の重要無形民俗文化財・ユネスコの世界無形文化遺産に登録された日本を代表する神楽です。

昨年の東日本大震災で、舞台や衣装がすべて津波で流され、公演が困難になっている状況を知った佐野市・足利市の方を中心とした有志が、被災地復興の支援として、早池峰大償神楽佐野・足利公演実行委員会を組織し、６月２日（土）に、唐澤山神社神楽殿で早池峰大償神楽「鎮魂と祈りの舞」を企画・上演しました。

夕刻５時、唐澤の山に唸るような太鼓の音が鳴り響き、幕が開きました。笛や鐘の音も賑やかに、５００年以上も継承されてきた伝統ある舞は、軽やかで楽しく、訪れた皆さんは拍手喝采。時を忘れ、大いに盛り上がりました。

山に闇が訪れると、松明が燃え、幻想の趣の中、日本人として心の原点を感じさせてくれる、幸せの一夜でした。

（市民記者　河場）

佐野弁　ばんざい

鬼やんまは山にいるからヤマドンブといった

日本でもっとも大きいとんぼは鬼やんまで、体長が10センチを超えているものもあります。雄の鬼やんまは縄張りがあって、その地域を行ったり来たりしながら獲物を探しています。黒と黄色の横縞模様が虎に似ているし、鬼のように恐ろしそうな姿にも見えます。そこでオニヤンマとかオニトンボなどといわれるようになりました。

佐野では、鬼やんまをヤマドンブ・ヤマドンボ・オーヤマドンブ（略してオーヤマという人もいます）などといっています。それは鬼やんまが山の近くにある小川や沼地などを生息地とし、蛙や小さな虫、あるいは空中を飛び回っている蝶や蛾を捕ったり、時には蜂や蝉などを捕ったりして食べているからです。ヤマドンブもヤマドンボも、「山とんぼ」が変化したものです。

「ヤマドンブって、堀っコに沿って、カミ（北）の方へ行ったかと思うと、すぐヒックリケッテ（引き返して）来て、いつも同じ行動してるンだね」

ヤマドンブ（ヤマドンボ）の種類の中で、もっとも大きなものをオーヤマドンブといいました。高齢者の中には、ヤマドンブ（オーヤマドンブ）を捕獲し、それをおとりにして他のヤマドンブを誘い寄せて捕らえるという遊びを経験した人も多くいることでしょう。

市民記者　森下喜一